

広報 こじようめ

発行所 秋田県五城目町役場 編集課 電話(018876)代 2100番
印刷所 湖東印刷所 電話(018876) 2430番 一部 5円
郵便番号 018-117 毎月1日・15日発行

十一月十日
役場事務午後から
休みます

窓口は平常どおり

きたる十一月十日は、天皇陛下御在位五十年を記念し国民こそつてこれを祝うため、日本武道館において記念式典を挙げることになっております。
当日役場事務も午後から休みになりますのでお知らせします。
なお窓口事務は平常どおりです

本町の斉藤選手活躍
去る十月十七日午前十時から、広域体育館において全県紅白柔道大会が行われた。
当日の参加選手は、高校生以上百四十三名、五時間におわたる熱戦を繰り広げた。この試合は勝ち抜き戦なので個人戦と違って、一人でも何人投げ飛ばすのか興味のあるところであった。最も多く勝ち抜いたのは、能代高校の平川敬尚選手が七人で、五城目町中川原出身で秋工の斉藤光人選手が一年生ながら三人、国鉄の奈良選手も同じく三人で、初段連の活躍が目を引き分けて紅白両陣営の選手たちは離隔相譲らず、結局引分けに持込んだ。
申し分ない会場
試合終了後主催した関係者に、広域体育館を柔道会場としての評価をしてもつた。それによる会場に余裕があつてよしい。選手、役員、観客の休憩室も用意されて非常に大会の運営をしやすい。そして何より高く評価されるのは、床下にあるスプリングの効果である。県内随一の会場たると評紙をつけていた。もし



熱戦をくり広げる選手たち

全県紅白柔道大会

熱戦相譲らず引分ける

出来たらもう百位位の畳が用意されていたら申し分ないところである。これが関係者の感想であつた。
柔道のはじまりは相撲?
柔道はその昔、相撲または源平時代における組討ちから鑑組討ち、小具足、腰のまわり、捕縛、捕手、取手、やわら、和術、柔術、柔道、体術、総法などと呼ばれたが、江戸時代中期以後は柔と通称されるようになった。柔道と呼ばれるようになったのは、大正初年頃からで、心身の力を最も有効に使用する道であるとして、柔道と称している。
町の柔道熱今一度
以来柔道を重んじながら体育、修心、護身を柱にして近代スポーツの中に取り入れられ、一九五六年には第一回世界柔道選手権大会が開かれ、オリンピック種目としても脚光を浴びるまで世界のすみずみに浸透している。しかしこの町の柔道熱は従来程の盛り上がりを見せておられない。この機会に今一度見直してみたいところである。

天皇の世紀 その波乱

来る十一月十日は、天皇陛下の御在位五十年記念式典が国家的スケールで実施される。
一九二六年十二月二十五日、大正天皇の崩御によって、摂政裕仁親王が改められたのである。「昭和」の呼称は書経逸典の「百世昭明、万邦协和」からの出典で、国民の幸福と国際平和実現の意味である。

しかしその心とは裏腹に、現実の歴史は冷きびししく、少くとも昭和二十年までは苦難と戦争の連続であつた。
七日間で終つた昭和元年はともかく二年三月には昭和金融恐慌が襲い、多数の銀行が破産に追いやられた。六年九月には満州事変が勃発、七月二月末には国際連盟を脱退している。十年二月六日は皇道派による軍部独裁政治への道を開くために起つた、いわゆる二、二六事件が雷の帝都を震撼させた。元将校十三人民間人四人が翌七年に処刑された。次第に軍事色が強くなつていく中で、十一年には盧溝橋事件、第二次上海事件が起り日中の戦局は拡大され、ついに全面的な戦争に突入した。そして二年三月には国家総動員法が施かれ、十四年には大政翼賛会が発足して政教政治は完全に終止符を打たれた。
十六年十二月一日の御前会議はついに対米英開戦を決定、全体主義護国精神と民主主義国家群が地味な激闘を繰り展開した。そして二十二年八月十五日無条件降伏となつた。満州事変から数えて十五年、太平洋戦争勃発から三年八月の長期戦に完結し、国民は史上初めて敗戦と被占領の体験を味わうことになったのである。二十一年一月神格否定の詔勅があり天皇の人間宣言をした。皮膚にも生かされた趣旨が敗戦によって昭かされたのである。昭和は長い天皇の世紀における小さな部分だが、その波乱は歴史の中に大きな影を落としていく。

五十一年度町功労者等

文化の日に表彰

伝統工芸を守り続けた人々も

来る十月三日午前十時から広城体育館第一体育室で、昭和五十一年度町功労者等の表彰式が行われる。

今年度の町功労者は、自治の進展に功勞のあった阿部徹英氏、昨年民生の安定に貢献したとして、勳五等旭日章を授与されている渡辺時治氏、自治の進展と産業の振興に尽された館岡誠郎氏、そして柔道を通して町のスポーツ振興に功績のあった佐藤勝太郎氏など四名が表彰される。また、四名のお席上、優良納税組合や伝統工芸の維持に尽された来方など二十四団体十八名が表彰ならびに感謝状を贈呈される。

民生の安定と保健衛生の向上

渡 辺 時 治



明治38年2月27日生(71才)

自治の進展

阿 部 徹 英



明治38年9月27日生(71才)

現住所 五城目町富津内山下内字 猿田沢14番地

昭和十六年以来、昭和三十三年

明治39年6月15日生(70才)
現住所 五城目町高崎字白旗32

昭和十三年から同三十六年四月まで馬川村農会技手、五城目町農会技手、五城目町農地委員、五城目町農業協同組合参事として、本町の産業振興に大きく貢献された



ほか、昭和二十三年から同三十一年まで五城目町議会議員、昭和三十六年五月から同四十三年まで五城目町経済課長同取入役、同助役の要職につかれ、地方自治の進展につくし、本町発展の基盤を培われた。

体育の振興

佐 藤 勝 太郎



明治39年9月29日生(70才)

現住所 五城目町下町66の一

昭和三年から同十一年まで五城目小学校訓導として奉職されるかたわら町民の体位向上を図るため尚武会を組織し、柔、剣道の普及につとめ、更に昭和二十一年三月

秋田師範学校教授退官後、昭和二十三年から現在まで二十八年間柔道の指導に当り本町の体育の振興に大きく貢献された。

伝統産業及び特殊技能を永年にわたつて守りつづけた方々並びにこれを次代に継承された方

(故) 石 黒 秀 雄



明治44年12月26日生(64才)

現住所 五城目町字石田六カ村堰 添23ノ5

昭和二年以來四十八年間、刃物鍛冶業に専念されその製品の優秀さと五城目鍛冶の名を世に高めた

小 杉 田 儀 一郎

明治32年1月7日生(77才)

現住所 五城目町字上町88ノ1

大正二年以來現在まで六十三年間、一貫して曲げものの製作を守りつづけ、秋田杉を生かした本町唯一の伝統工芸品として内外にその名を高めた。



永 沢 則 竹



明治44年8月13日生(64才)

現住所 五城目町字福荷前54ノ8

大正十四年以來現在まで五十一年間、日本古来の弓道に用いる弓矢の製作を守り続け、かつこれを次代に継承した。

交通指導員

高 橋 兼 太郎 (10年勤続)

伊 藤 金 三 ()

永年にわたり交通指導員として積極的に街頭指導を推し進め、交通安全思想の高揚と交通事故の防止に努めている。

国保無傷病世帯

波 辺 松 之 助 (3年連続)

宮 城 石 夫 ()

伊 藤 石 五 郎 (2年連続)

山 本 利 雄 ()

松 橋 興 ()

伊 藤 豊 治 郎 ()

工 藤 順 司 ()

献血の重要性を認識され、二十回以上率先して献血したその博愛の精神は他の模範である。

納 税 組 合 (10年以上)

(全戸加入)

町 村 納 税 貯 蓄 組 合

門 前 齊 藤 政 祐

湯ノ又羽立 齊 藤 忠 一

浅見内第一 松 橋 勘 一

杉 沢 第 一 石 川 亮

馬場目落合 金 沢 弘 治

富田第一 石 井 孫 一

富田第二 原 田 功 三

富田雷 阿 部 正

北 村 伊 藤 俊 治 郎

高 橋 松 橋 正 司

浅見内第二 松 橋 礼 二

浅見内第四 松 橋 金 男

浅見内第六 伊 藤 征 一

希望丘 工 藤 正 雄

小池町 川 村 良 作

脇 乙 加 賀 谷 正 作

伊 藤 俊 雄

大川第一納税貯蓄組合

大川清水 組 合 長 木 村 清 一 郎

畑町第二 伊 藤 健 吉

大川東屋布第一 加 藤 節 郎

大川寺小路第一 小 熊 正 直

北嶋兼太郎

納税功勞(個人)

山田 佐市(広ヶ野納税組合長)
安東 誠(川原町)
佐藤 重治(中川原)
一岡清治郎(久保)
◎国・県等から表彰を受けられた
かたがた(敬称略)
(昭和50年11月3日)
(昭和51年11月2日)

自治関係

勳六等軍光旭日章
内閣総理大臣表彰
(昭和51年2月20日)
(故)石川茂右衛門(杉沢)
永年勤続功勞
内閣総理大臣表彰
(昭和51年10月18日)

統計調査事務吏員

八柳 博(大川)
全国国土調査協会会長表彰
(昭和51年6月14日)
国土調査事務吏員
佐々木 功(平ノ下)

東北地区納税貯蓄組合連合会長
表彰(昭和51年10月5日)
五城目町納税貯蓄組合
連合会長 伊藤一実(昭辰町)
秋田県知事表彰
(昭和51年9月7日)

統計調査員

斎藤 長吉(田町)
工藤 卓美(下樋口)
統計事務吏員
八柳 博(大川)

教育・学芸・文化関係

昭和50年度学道校造林環境緑化コ
ンクール入選
国土緑化推進委員会理事長表彰
永年勤続功勞章

町立富内小学校

(秋田県学道造林コンクール、秋
田県知事賞 昭和51年4月27日)
・全国学芸コンクール社会人の部
小説部門第一位
松下幸之助賞、旺文社社長賞
(昭和51年1月15日)

賞

東北中学校バスケットボール大
会優勝
東北バスケットボール協会会長表彰
東北中学校体育連盟会長表彰
(昭和51年8月4日)
町立五城目第一中学校
福祉関係
優良賞
秋田県知事表彰
(昭和51年3月13日)

福社関係

乙子子ども会
代表 伊藤 孝雄(脇乙)

子ども会成功功勞賞
秋田県知事賞
(昭和51年3月13日)
蓬内子ども会育成会
代表 宮城正太郎(蓬内台)

交通安全章

全日本交通安全協会会長表彰
(昭和51年9月30日)
安全運転管理者
高橋 正治(紀久栄町)

安全運転者

板庭 勇助(館町)
小武海金治郎(新畑町)
消防関係
永年勤続功勞章

消防庁長官表彰

(昭和51年3月4日)
第三分団長
齋藤 鴻司(船越)
功績章
日本消防協会会長表彰
(昭和51年3月3日)
消防副団長
小玉太英雄(千日)

特別功勞者表彰

全国消防協会会長表彰
(昭和51年9月9日)
消防署長 泉谷春治(下高崎)
有 功 章
秋田県知事表彰
(昭和51年1月1日)
消防司令補
佐藤 良誠(船町)

第二副分団長

渡部昭三郎(御蔵町)

産業関係

功 勞 賞
国土緑化推進委員会理事長賞
東北・北海道地区緑化推進委員
会委員長表彰
(昭和51年8月25日)
工 藤 孝 二

桜庭さん

緑十字銅章を受ける

五城目町夜場に勤務している、
桜庭勇助さんは、去る九月三十日
全日本交通安全協会会長から、運転
免許取得者にとって最も名誉ある
とされている、交通安全緑十字銅
章を受与された。

一校庭さんは、昭和二十五年五月

に運転免許を取って以来二十五年間
無事故無違反の範を称えられたも
ので、職場でも安全運転は定評の
あるところである。

九月町議会定例会において同意

を得て、新任または再任された。
選挙管理委員会委員、教育委員会
委員は先の広報でお知らせしたが
選管委員長は去る十月一日初委員
会を開き、委員長に島崎徳司を
決めた。
なお、同日の教育委員会では、
松橋教育長を再任している。
以下両氏の略歴を紹介したい。

選管委員長

島崎 徳 司(62才)

昭和六年 県立金足農学校卒
昭和十八年 秋田県農会勤務
昭和十八年 農林省秋田作物報告
事務所勤務(現統計調査事務所)
昭和四十八年 同右退職
有限会社取締役重役
に就任現在に至る。

昭和二年 内川村役場書記
昭和四七年 五城目町役場退職
五城目町教育委員教育長に就任
昭和五一年 再任される

伊藤一実氏

納税貯蓄組合連合法施行二十五周年
を記念して、各地区において納税
に顕著な功勞のあつた方々が表彰
を受けた。本町関係は次のとおり
り。
去る十月五日仙台市で東北地区
納税貯蓄組合連合会から、昭辰町
の伊藤一実氏が、同十二日秋田県
納税貯蓄組合連合会から長町の鍋
谷芳郎氏の二名の方が、納税功勞
者として表彰を受けている。

表彰される

伊藤一実氏は、
昭辰町納税貯蓄組合を任意組
合から、百名余の全戸加入組合
を実現したのをはじめ五城目町
納税貯蓄組合連合会長として、
組合設立を推進し各地区の納税
思想の普及に大きな貢献を果す
など、各方面からその努力が認
められている。

鍋谷芳郎氏

長町の納税貯蓄組合を任意か
ら全戸加入を実現し、自ら組合
員の貯蓄推進をしその基礎づく
りに大きな役割を果している。
なお、五城目町納税貯蓄組合
連合会設立と同時に監事として
就任、納税運動リーダーとして
献身的な活躍は衆目の認めるこ
ころである。

鍋谷芳郎氏

昭和二年 内川村役場書記
昭和四七年 五城目町役場退職
五城目町教育委員教育長に就任
昭和五一年 再任される

昭和二年 内川村役場書記
昭和四七年 五城目町役場退職
五城目町教育委員教育長に就任
昭和五一年 再任される

人権相談所へ どうぞ

無料で秘密を守ります
十一月十六日
午前十一時午後三時まで
役場第二会議室

相談内容

一、人 権
例(賠償感得、私的制裁、差別
待遇、名誉、信用、信教の
自由、労働権、住居の安全
等に対する侵犯、強制圧迫
ばい煙、悪臭等の被害等)
二、結婚 三、離婚 四、親子
五、扶養 六、相続 七、戸籍
八、借地借家 九、損害賠償
十、農 地 十一、登 記
十二、雇 傭 十三、交通事故
十四、法律扶助制度による手続
人権擁護委員
佐藤勝太郎(仲町) T二三一〇
小林 米蔵(下山内) T七四一九
小照 正直(大川二区)
T(八郎高)二五四六
川村 アヤ(川原町) T三六三五
加藤 教誠(野田) T八三三三

相談は、人権擁護委員や法務局
職員が、皆さんの相手となり、ど
のような相談にも応じます。

五城目町合理生活運動の提唱

冠婚葬祭の無駄をみんなの力でなくしましょう

ここ数年來社会の情勢は私達の生活を大きく変えてゐる。急激に都市化がすすみ生活環境などの点でもいろいろ新しい問題がでてきている。とくに最近の冠婚葬祭をみても、とさら華美に流れてきている傾向にある。

よつては公民館職員も相談にのる。と密接な連絡をとるようになる。

二、費用について

・会費制にする。
・会費は五、〇〇〇円以内にする

・料 理 二、五〇〇円
記念品(引き物) 一、五〇〇円

・その他 五〇〇円
五〇〇円

・式場使用料
・案内状の印刷代と郵送料
・結婚披露宴のしおり、座席と式次第印刷代
・両親への花束又は記念品
・化粧品、衣服の借上げ写真代
・その他

このため町の公民館では町内部落会や社会教育団体等の意見を聞きながら過去幾度となく冠婚葬祭の改善を叫び続けてきたがほとんど成果も得られず今日にいたつているところである。しかし地域住民の強い要望により、その改善のためには町にふさわしい要項をつくり、項目の空気を止めしなごうとご理解ご協力を願ひたいところである。町内部落を基盤にした地域ぐるみの運動を展開するため、公民館では町内から多くの意見をとりまとめ運営審議会で検討した結果、次のような冠婚葬祭の骨子をまとめ町民各位のご協力を願うことになった。その主なものは次のとおりである。

●結婚披露宴関係について

一、世話人会を作る
・結婚する当人の先輩、友人と親戚代表等をつくり役割分担をして運営する。
・世話人の依頼は当事者で行う。
・世話人会は結婚披露宴を主催し準備、受付、会計、連絡一切の世話をする。
・世話人会は式場関係者(要求に

●葬儀関係について

物でおくやみするより心でおくやみとはげましをして出来るだけ簡素にいたしましょう。

三、その他

・五城目町内いずれの式場で行う場合もこの提唱に賛同され、この方式で実施するよう望むとともに町民みんなで協力し合いましょう。

広報ごじょうめ

第311号

故人をしのぶことが大切であり、形式にとらわれずロソク線香の外、できるだけ簡素にしむだな経費をかけないよう工夫しましょう。

・会葬火葬について
会葬や火葬に参列の方へのお返しは廃止しましょう。
葬式の手伝いの方には心づかいをしないようにしましょう。

●病氣見舞について
病氣見舞のお返しはほとんど廃止されているようですが、町の一部でまだあるようです。ハ

くらしに生かす
放送利用々町民の集い

五城目町生涯教育推進本部と同教育委員会主催で、来る十一月二十一日午前九時十分から町民センターにおいて、今年度のくらしに生かす放送利用町民集会を開くことになった。

本町は三年前から生涯教育パイロット地区に指定されているが、その学習方法の一環として放送利用を取りあげてから二年目に入っている。このたびは、その成果を見せ兼ねが、更に生活課題に結びつく放送を、更に利用したらよいか、四分散会に分れて討議することになった。

主催者側では
町民のみならずごなたでも結構なので、多数参加してこの集い成

ガキ等のあいさつ程度にしましょう。

●年祝い、出産祝いについて

親せきを中心とした祝い事になってきているようですが、接待などむだな経費をかけないようにしましょう。

●新築、改築関係について

努力奉仕だけにして、お酒等の祝品のお届けはやめましょう

五城目町公民館
五城目町若妻連絡協議会
五城目町連合青年会

果を高めていただきたい、として

一、主題

「放送をくらしに生かすためにはどのように利用したらよいか」

二、対象

生涯教育推進本部、生涯教育奨励員、生涯教育研究員、生涯教育推進協力員、教育委員、社会教育委員、分館職員、公民館運営審議委員、体育指導委員、文化財保護専門委員、PTA会員、学校教職員、家庭教育学級生、放送町民大学生、保育所職員、婦人会員、若妻会員、青年会員、高齢者学級生、一般町民参加希望者

三、期日

五十一年十一月二十一日(日)

四、場所 町民センター

杉沢中で公開研究会

一創造性を育てる統計教育一

去る九月十七日(金)五城目町立杉沢中学校(生徒数四十三名、伊藤教三校長)で、秋田県教育委員会指定の統計教育公開研究会が開かれた。当日は県内各地から小、中、高校の教師が百三十名と六名の講師を迎えて行なわれた。大会は「統計資料を活用しよう」の見方、考え方をのばす指導はどうあるべきか、をテーマに公開された。社会科、数学科、特別活動の授業がいずれもあつめる一まとめめるよまとるの統計手法を用いてその効果をねらつたもの。一年生の社会科では、東北の農業の特色を調べ、統計によつて考えようとするもの。二年の数学科

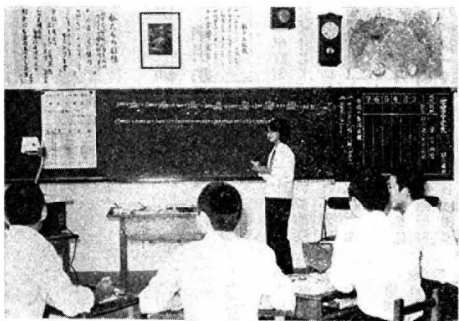
は、確率の学習で、計算技法だけでなくその意味や利用を、自分たちの生活の中からあつめてきた資料で学ぼうとするものであった。三年の特別活動は、卒業時の進路を自分たちであつめた実例を出し合つて真剣に生きた。杉沢中の生徒たちは昨年から一カ半年、自分たちであつてきた資料で統計グラフを創り、自主的に学習しようとしてきたのであつたが、当日はどの教科も自分の意見を要領よくまとめ、わかりやすい発表であつた。

身近の問題について、追求に学びつづけようとする力が生徒の身につけていたことは杉沢中の先生方の研究的な指導力の成果であつたらうと思われ。藤原主任指導主事は講評の中で統計教育の効果が三教科の中にはつきりあらわれていたと高く評価された。

徒たちが、自ら学ぶを目標に統計教育の公開をしたことは五城目町の教育振興のために多大の影響を与えたことと思われる。

伊藤校長は最後のあいさつの中で、一年半でやり得なかつた課題に向つて、今後努力することその決意をのべた。

統計手法を使った学習効果は大きい



第12回 五城目〜上小阿仁間駅伝 土崎陸友会初優勝

第十二回五城目上小阿仁駅伝が去る十月二十四日、参加三十三チーム百六十五名の選手で優勝が争われた。
今年のスタートは、上小阿仁村役場前で、決勝点は広域体育館入口であった。午前十一時スタートの合図する福音とともに選手たちの健脚は決勝点をめざした。常勝自衛隊チームが参加しないために、各チームは優勝のチャンスが非常に身近になっていることを知っており、選手を励ますメガホンの声にも力が入った。
上小阿仁村をすぎると川堤まで全山紅葉の山脈をくわっている国道二八五号線をひた走る。今年は大きな台風がなかったためか、広

葉樹の多いこの街道の紅葉は見事であった。その中に汗する選手の姿は正に一服の絵であった。自然のたえずまがいた身を浄化する一瞬に、各チームは優勝のチャンスが非常に身近になっていることを知っており、選手を励ますメガホンの声にも力が入った。
さてトップを走る土崎陸友会は練習にみがきあげられ洗練された走法でトップ



決勝点をめざして力走する

成績一覽

コース 上小阿仁〜五城目(32km)5区間

順位	チーム名	タイム	順位	チーム名	タイム
1	土崎陸友会	1.37.48	17	船越走友会	1.51.54
2	秋田鉄道管理局	1.41.46	18	河辺陸上クラブ	1.52.20
3	平鹿オレンジクラブ	1.42.35	19	横手オレンジクラブ	1.52.27
4	森吉陸協	1.43.17	20	合川高校	1.53.24
5	男鹿市陸協	1.44.11	21	秋田県庁チーム	1.53.26
6	五城目陸友会	1.44.37	22	綴子走友会	1.53.45
7	若美駅伝クラブ	1.46.07	23	瀧西陸友会	1.54.13
8	秋田大学	1.47.00	24	雄和陸友会	1.55.49
9	能代市陸協	1.47.41	25	盤若耐忍会	1.55.52
10	手形愛走会	1.49.09	26	二ツ井町陸上競技協会	1.56.18
11	秋大クラブ	1.49.13	27	土崎走友会	1.56.53
12	秋田高校	1.49.25	28	手形RC	1.57.11
13	鷹巣町陸上競技協会	1.50.03	29	五城目町農協	1.59.57
14	米内沢高校	1.50.28	30	上小阿仁体協	2.00.50
15	米前走友会	1.51.00	31	五城目町役場	2.03.02
16	東北製紙	1.51.14			

九人制バレーボール

県選抜大会広域体育館で

十一月十四日

を譲らザゴールイン五城目陸友会チームは、昨年の四位から六位に転落したが、アンカー石井道春選手は五区の区間ラップをとって一矢を報いた。
初出場の五畿協チームはよく頭振り二十九位、役場チームは大会の最後をしめくくった。
途中二チームが棄権しているので、完走した努力は称えられたところである。
成績次のとおり。

成績次のとおり。

なお、五城目町からは、先の県民スポーツ大会で優勝した五城目クラブと、女子の選抜チームが出場する。愛好者ならびに町民各位の応援を歓迎したい。

＜幹事大学開校＞

あなたは集会のリーダーになつてみませんか

教育委員会では、このたび各種親睦会旅行会、同窓会、年祝い、子ども会などいろいろな集会を、楽しくスムーズに運営する幹事を養成する企画をたてている内容は次のとおり
なので、希望者は、会費千五百円を添えて五城目町公民館の方へ申し込んでほしい。

一、期日

- ① 第一日目 十一月五日(金) 午後五時三十分〜八時三十分
- ② 第二日目 十一月六日(土) 午後一時三十分〜四時三十分

十一月の主要行事一覽

- 十一月三日(文化の日)
 - 「町功勞者表彰式典」
 - 「前十時開会」
 - 「第二十回秋田県山登山競技会」
 - 「前九時開会式」
 - 「前七時開会式」
 - 「閉会式」
 - 「十一月五日(金)」
 - 「老人福祉大会」
 - 「前十時開会」
 - 「出稼者安全就労推進集会」
 - 「納税時半」
 - 「納税強調月間キャラバン」
 - 「十一月十一日(木)」
 - 「乳児検診」
 - 十一月十四日(日)
 - 「第二回全県選抜(社会人)バレーボール大会」
 - 「前九時開会」
 - 「今年度各種全県大会でベスト四に入ったチームの対戦」
 - 「十一月十六日(火)」
 - 「乳児健康相談」
 - 十一月十九日(火)
 - 「第三日目」
 - 「午後五時三十分〜八時三十分」
 - 「二、場所」
 - 「五城目町民センター、体育館」
 - 「三、対象者」
 - 「五城目町各種団体、職場、子供会世話人、等の関心のある方々」
 - 「五、会費 一人 一、五〇〇円(最終日の反省会等の費用です)」
 - 十一月十七日(水)
 - 「三才児検診」
 - 十一月十八日(木)
 - 「三種混合予防接種」
 - 十一月二十一日(日)
 - 「くらしに生かす放送利用町民の集い」
 - 「前九時開会」
 - 「放送利用学習の学級生や住民の希望者多数参加を歓迎します。」
 - 「全町卓球大会」
 - 十一月二十二日(月)
 - 「母親学級」
 - 十一月二十三日(勲勞感謝の日)
 - 「伊藤咲子ショー」
 - 「ピアノ・エレクトーン発表会」
 - 十一月二十八日(日)
 - 「三日間修了した方には、幹事大学の修了第一期生として登録します。幹事大学修了生として、次の中級への道が開けます。」



おしらせ

戦没者遺族に対する 第二回 特別弔慰金 未請求者手続きについて

◆対象者

①前回の特別弔慰金受給者であつて
五十年四月一日現在で遺族年金、公務扶助料等の受給権者がいない者

②昭和十六年十二月八日以後に死亡した者の遺族で次に該当する者

昭和五十年四月一日までに遺族授護法の規定による弔慰金を受給した者で遺族年金、公務扶助料等の受給権者がいない者

助料等の受給権を有する者がいたが昭和四十七年四月一日から昭和五十年三月三十一日までの間にすべての資格がなくなつた者

③①②に該当する者が五十年四月一日において欠格条件に該当したか又は死亡している場合は次の先順位者になる

④日華事変間における戦没者の遺族であつて遺族年金、公務扶助料等の受給権者がいない者

・今回の特別弔慰金の額は死亡した者一人につき二十万円の債券を交付し十年間で受給することになっております。

⑤請求用紙は住民課にあります。

肢体障害者巡回相談

一、日時 十一月五日(金)
午後十二時半～午後四時

二、場所

町民センター(いづみ)

三、対象者

五城目町管内肢体障害者

四、相談事項

①新たに手帳交付の必要とする者の診断

②手帳交付後の等級変更

③補装具交付の診断、再交付の相談

④持参するもの

⑤身障手帳所持者は必ず手帳を持参すること。

⑥受診者全員印鑑持参のこと。

なお、医師の診断は午後二時頃から開始しますが、相談を受ける人は受付並びに検査などいたしまの午後十二時半より二時までの間においでください。



活躍めざましい本町スポーツ界

先に今年度本町スポーツ界のめざましい活躍について、町広報および全町体育祭において発表しましたが、その後9月26日に南秋バスケットボール協会が主催した、第2回大会において本町チームは男女とも優勝し、更に同月28日に秋南体指連主催した第2回高令者ゲートボール大会において、本町Aチームが優勝しBチームが第3位に、中学校の秋の大会(新人戦)で団体5種目に優勝するなど、本町スポーツの活躍がなおつづいており、広域体育館建設の意義が大きく立証されております。

12月1日から 戸籍謄本の請求には 「使用目的」を明らかに

来る十二月一日から戸籍謄本の交付請求のしかたが改正されます。改正の理由は、戸籍を不当に利用してみなさんのプライバシーを侵害することのないようにすることにあります。

今後、他人の戸籍や除籍の謄本を請求するときは「請求の理由」つまり何の目的に使用するかを具体的に示していたことにいたします。もし、その請求が不当な目的によるものであるときは、これに応じられないこととなります。また、戸籍の閲覧はできなくなります。

なお、郵便で請求する場合の手数料は、必ず現金書留か、郵便局

の定額小為替で納めてください。

△注意▽

本人といつわつたり、その理由を示して、戸籍の謄本の交付を受けたときは過料に処せられることがあります。

- 全県花だんコンクールで 老人ホーム等入賞す
- 今年度の「全県花だんコンクール」へ三施設の出品参加していましたが、このほど審査が終了の通り入賞しました。
- ◆施設団体の部
 - 養護老人ホーム 努力賞
 - 五城目幼稚園 奨励賞
 - 小学校の部 奨励賞

総務事務所からお知らせ

個人事業税二期分の納期

は十一月三十日です。昭和五十一年度分の個人事業税二期分の納税通知書は十一月月上旬に発送されますので十一月三十日まで、必ず最寄の金融機関(銀行、郵便局、農協)に納付してください。

内川小児童生徒 自分達の手で義援金贈る

内川小学校児童代表が、去る九月三十日NHK秋田放送局を訪れて、台風十七号による罹災者に対する義援金二万四千二百三十九円を贈った。



これは同校五年生が台風の被害を受けた友だちのために、一人十円以上の募金を始めたのがきっかけとなり、六年生も五年生に負けずと、各戸にチラシを配布して地域の協力を求めるなど、腐品回収(ビン類)のなかで、地城のかげまわった。地城の人々も手もたはらされた優しさには心根の協力を惜しむなかつた。今村房蔵校長は「全く学校ではクツチ徒が自主的にやってくれた事に感謝して、不幸な人々に対して思いやりの心をあらわすことには思っていない事でも、情操教育の上からも、情しい事だと思つていた」と語っていた。



今月は国民年金普及推進月間で
年金相談室をご利用ください

11月は「国民年金普及推進月間」にあつています昭和36年4月に拠出制の国民年金がはじまり、町の国民年金の状況は、加入している人4,969人、年金を受けている人は1,065人です。また、町の体育館や柔剣道場の建設も、皆さんの納めた保険料の積立金から融資を受けてできたものです。

このように国民年金は今では私たちの生活にすっかり密着したのものになっています。

今月は「国民年金普及推進月間」にあつていますが、町では11月13日から3日間五城目農協で行なわれます産業祭会場に、年金相談室を開きます。期間中は県から係官が来ますので、お気軽にご相談ください。